

1. 需給見通し

農林水産省は、「砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律」（昭和40年法律第109号）により、でん粉に関して適切な価格調整を図るため、半期ごとにでん粉の需給見通しを公表している。2月に公表したでん粉の需給見通しの概要は、次の通り。

でん粉の需給見通し	
【令和3でん粉年度（実績）】	
需要量	240万2000トン（前年度比0.8%増）
供給量	242万3000トン（同0.04%増）
【令和4でん粉年度（見通し）】	
需要量	249万4000トン（同3.8%増）
供給量	250万2000トン（同3.3%増）

表1 でん粉の需給見通し

(単位：千トン)

		令和2でん粉年度 (実績)		令和3でん粉年度 (実績)			令和4でん粉年度 (見通し)		
		計	10-3月	4-9月	計	10-3月	4-9月	計	
需要	糖化製品	1,625	736	876	1,612	785	890	1,675	
	化工でん粉	265	134	136	269	133	142	275	
	その他(製紙用、ビール用、片栗粉など)	493	244	276	521	263	281	544	
	合計	2,382			2,402			2,494	
供給	前年度繰り越し	32			40			21	
	国産いもでん粉(生産量)	国産いもでん粉(生産量)	186	171	—	171	168	—	168
		かんしょでん粉	21	21	—	21	15	—	15
		ばれいしょでん粉	165	150	—	150	153	—	153
	調整金 徴収 対象	コーンスターチ	2,048	944	1,107	2,052	1,013	1,138	2,151
		輸入でん粉 (糖化製品、化工でん粉用)	131	60	74	134	63	71	134
	輸入でん粉(その他用)	9	6	5	11	6	7	13	
	小麦でん粉	15	8	8	16	8	8	15	
	合計	2,422			2,423			2,502	
	次年度繰り越し	40			21			8	

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

注1：でん粉年度とは、10月から翌9月まで。

注2：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

表2 国内産いもでん粉の需給見通し

(単位：千トン)

		令和4年10月～令和5年3月 (見込み)			令和5年4月～9月 (見通し)			令和4でん粉年度計			
		かんしょ でん粉	ばれいしょ でん粉	上期計	かんしょ でん粉	ばれいしょ でん粉	下期計	かんしょ でん粉	ばれいしょ でん粉	計	
需要	交付金 対象 用途	糖化製品	5	13	18	3	10	12	7	23	30
		化工でん粉	1	17	18	0	12	13	1	29	31
		その他	5	23	27	3	24	27	7	47	54
		小計	10	53	63	6	46	52	16	99	115
	その他の用途	0	28	28	0	37	37	0	65	65	
	計	10	81	92	6	83	89	16	164	180	
供給	前期からの繰り越し	4	17	21	8	89	97	4	17	21	
	生産量	15	153	168	0	0	0	15	153	168	
	計	19	170	188	8	89	97	19	170	188	
次期への繰り越し		8	89	97	3	6	8	3	6	8	

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

注1：でん粉年度とは、10月から翌9月まで。

注2：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

注3：交付金対象用途の「その他」について

ばれいしょでん粉は、菓子類、麺類、水産練製品、冷凍調理食品、食肉製品、調味料、板紙（層間接着用）、水産養殖用餌料などである。

かんしょでん粉は、菓子類、麺類、水産練製品、冷凍調理食品、食肉製品、建材などである。

注4：交付金対象用途外の「その他の用途」は、片栗粉などである。

(1) でん粉の需要量の見通し

用途ごとのでん粉の需要量の見通しは以下の通り。

【糖化用向けでん粉の需要量】

令和3でん粉年度は、前年度からわずかに減少

令和3でん粉年度は、全体の需要がおおむね維持され、前年度を1万3000トン下回る161万2000トンとなった。

4でん粉年度は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響が一部見込まれるものの、経済活動の回復に伴い清涼飲料および土産需要などが緩やかに増加すると見込まれることから、前年度を6万3000トン上回る167万5000トンと見通している。

【化工でん粉用向けでん粉の需要量】

令和3でん粉年度は、前年度からわずかに増加

令和3でん粉年度は、仕向け先ごとの需要の変動

はあるものの、全体としては需要が緩やかに回復したことから、前年度を4000トン上回る26万9000トンとなった。

4でん粉年度は、COVID-19の影響が一部見込まれるものの、経済活動の回復に伴い外食需要などが緩やかに増加するとし、前年度を6000トン上回る27万5000トンと見通している。

【その他用途向けでん粉の需要量】

令和3でん粉年度は、前年度からやや増加

令和3でん粉年度は、COVID-19による外出自粛の影響により落ち込んでいたビール、物流の回復に伴う製紙・段ボールなどの需要が増加したことにより、前年度を2万8000トン上回る52万1000トンとなった。

4でん粉年度は、COVID-19の影響が一部見込まれるものの、経済活動の回復に伴いビール向けの需要および物流回復に伴う段ボール需要などが緩やかに増加すると見込んでいることなどから、前年度を2万3000トン上回る54万4000トンと見通している。

（２）でん粉の供給量の見通し

各種でん粉の供給量の見通しは以下の通り。

【かんしょでん粉の生産量】

令和3でん粉年度は、前年度並み

令和3年産のでん粉原料かんしょの生産量が、産地でのサツマイモ基^{もとぐされ}腐病発生の影響により前年に続き低水準となり、かんしょでん粉の生産量は、前年度同の2万1000トンとなった。

4年産についても、サツマイモ基腐病発生により収量が減少したことに加え、原料いものでん粉用途への仕向け量が減少したことから、かんしょでん粉の生産量は前年度を6000トン下回る1万5000トンと見通している。

【ばれいしょでん粉の生産量】

令和3でん粉年度は、前年度からかなりの程度減少

令和3年産のでん粉原料ばれいしょの生産量が、北海道における7月の高温・小雨による不作の影響などにより減少したことから、ばれいしょでん粉の生産量は前年を1万5000トン下回る15万トンとなった。

4年産については天候不良により一部地域でいもの腐れが発生したものの、作付面積の拡大により増加が見込まれ、ばれいしょでん粉の生産量は前年を3000トン上回る15万3000トンと見通している。

【コーンスターチの供給量】

令和3でん粉年度は、前年度並み

令和3年度は、COVID-19による外出自粛の影響により落ち込んでいたビール、物流の回復に伴う製紙・段ボールなどの需要回復により、3でん粉年度の供給量はでん粉ベースで前年度を4000トン上回る205万2000トンとなった。

4年度は、COVID-19の影響が一部見込まれるものの、経済活動の回復に伴い、緩やかに需要が増

加すると見込まれ、清涼飲料および物流資材需要などが増加することから、前年度を9万9000トン上回る215万1000トンと見通している。

【輸入でん粉の供給量】（糖化製品、化工でん粉用）

令和3でん粉年度は、前年度からわずかに増加

令和3でん粉年度は、外食など向けの需要の回復により、前年度を3000トン上回る13万4000トンとなった。

4でん粉年度も需要に応じて、同程度の供給がなされるものとして、前年度同の13万4000トンと見通している。

【輸入でん粉の供給量】（その他用）

令和3でん粉年度は、前年度から大幅に増加

令和3でん粉年度は、外食など向けの需要の回復により、前年度を3000トン上回る1万1000トンとなった。

4でん粉年度は、COVID-19の影響が一部見込まれるものの、経済活動の回復に伴い、外食などで緩やかに需要が増加すると見込まれ、前年度を2000トン上回る1万3000トンと見通している。

【小麦でん粉の供給量】

令和3でん粉年度は、前年度からかなりの程度増加

小麦でん粉は、主に畜水産練り製品向けとして供給されており、令和3でん粉年度は前年度を1000トン上回る1万6000トンとなった。

4でん粉年度も需要に応じて、同程度の供給がなされるものとして、前年度を1000トン下回る1万5000トンと見通している。

2. 輸入動向

【タピオカでん粉の輸入動向】

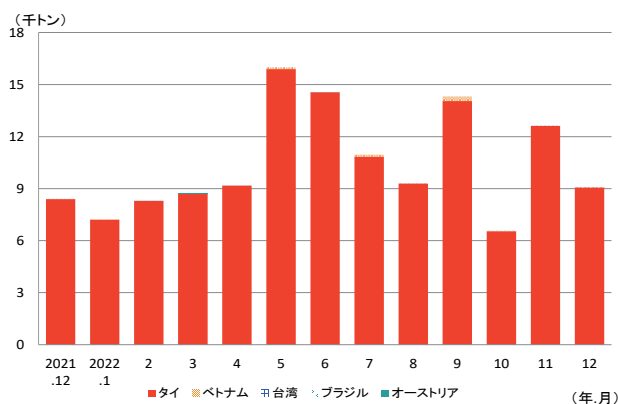
12月の輸入量は前年同月からかなりの程度増加

財務省「貿易統計」によると、2022年12月のタピオカでん粉の輸入量は、9097トン（前年同月比8.1%増、前月比28.1%減）と、前年同月からかなりの程度増加した（図1）。

輸入先はタイ、ベトナムおよび台湾で、国・地域別の輸入量は次の通りであった。

タイ	9065トン
	（前年同月比8.0%増、前月比28.2%減）
ベトナム	17トン
	（同88.1%増、同2.1倍）
台湾	16トン
	（同91.8%増、同3.9%増）

図1 タピオカでん粉の国・地域別輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」

注：HSコード1108.14-010、1108.14-020、1108.14-090、1108.14-091、1108.14-099

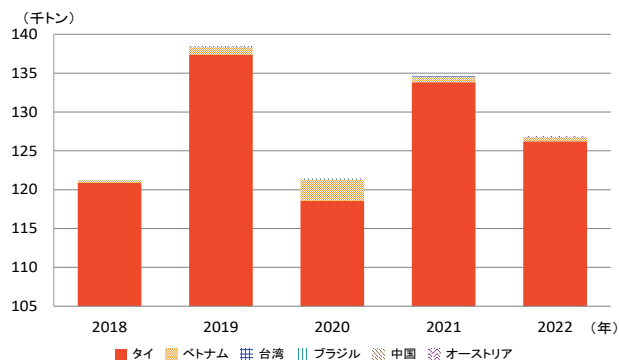
また、2022年1～12月のタピオカでん粉の輸入量は、前年比5.8%減の12万6893トンと、前年をやや下回った（図2）。国・地域別の輸入量は次の通りであった。

タイ	12万6233トン（前年比5.7%減）
ベトナム	556トン（同24.4%減）
台湾	85トン（同12.3%減）

ブラジル 19トン（同2.7%増）

オーストリア 0.1トン（前年輸入実績なし）

図2 タピオカでん粉の国・地域別輸入量の推移（年別）



資料：財務省「貿易統計」

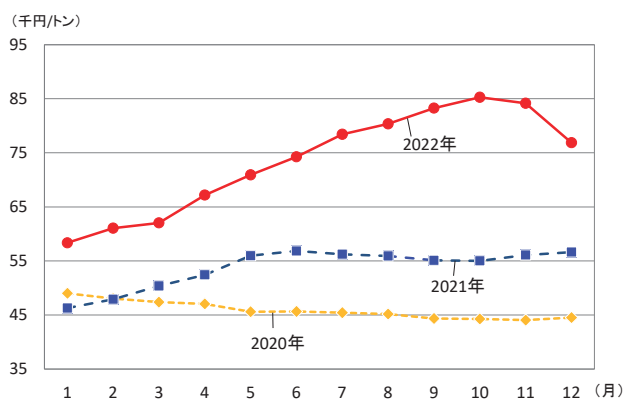
注：HSコード1108.14-010、1108.14-020、1108.14-090、1108.14-091、1108.14-099

2022年12月の1トン当たりの輸入価格は、7万6858円（前年同月比35.7%高、前月比8.7%安）と、前年同月を大幅に上回った（図3）。

国・地域別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

タイ	7万6312円
	（前年同月比35.8%高、前月比8.5%安）
ベトナム	7万4059円
	（同61.7%安、同75.3%安）
台湾	39万5865円
	（同16.1%高、同10.2%安）

図3 タピオカでん粉の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」

注：HSコード1108.14-010、1108.14-020、1108.14-090、1108.14-091、1108.14-099

【サゴでん粉の輸入動向】

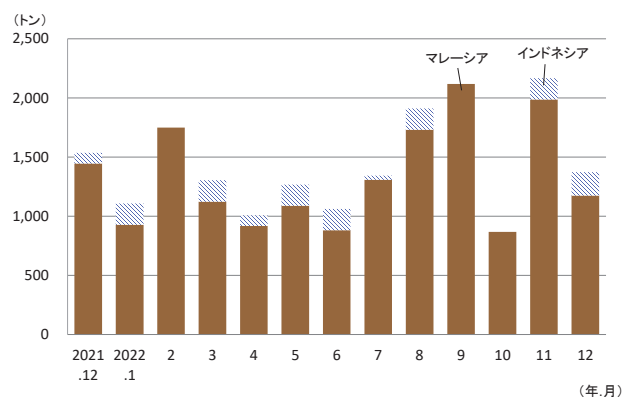
12月の輸入量は前年同月からかなりの程度減少

財務省「貿易統計」によると、2022年12月のサゴでん粉の輸入量は、1373トン（前年同月比10.6%減、前月比36.7%減）と、前年同月からかなりの程度減少した（図4）。

輸入先はマレーシアおよびインドネシアで、国・地域別の輸入量は次の通りであった。

マレーシア	1175トン
（前年同月比18.7%減、前月比40.9%減）	
インドネシア	198トン
（同2.2倍、同10.0%増）	

図4 サゴでん粉の国・地域別輸入量の推移

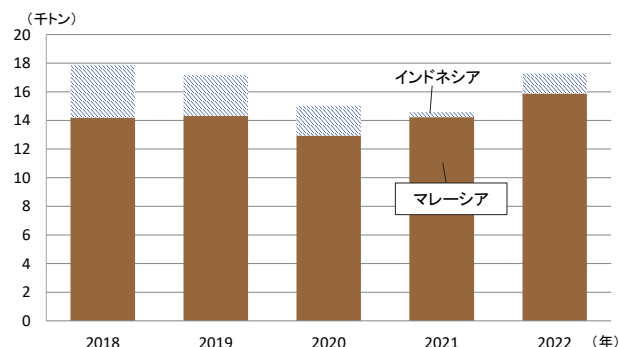


資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1108.19-011、1108.19-012、1108.19-017、1108.19-018、1108.19-019

また、2022年1～12月のサゴでん粉の輸入量は、前年比18.5%増の1万7281トンとなり、前年を大幅に上回った（図5）。国・地域別の輸入量は次の通りであった。

マレーシア	1万5877トン（前年比11.6%増）
インドネシア	1404トン（同3.9倍）

図5 サゴでん粉の国・地域別輸入量の推移（年別）



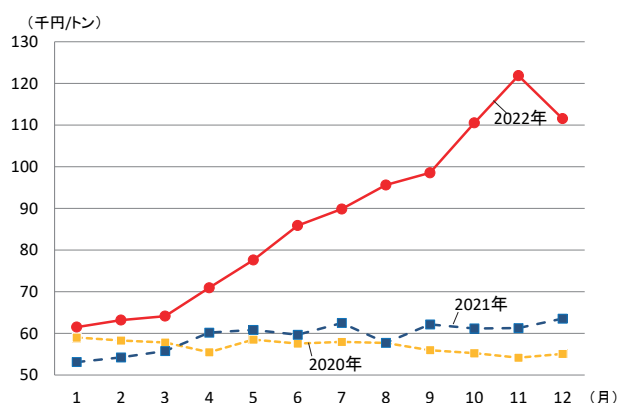
資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1108.19-011、1108.19-012、1108.19-017、1108.19-018、1108.19-019

2022年12月の1トン当たりの輸入価格は、11万1556円（前年同月比75.6%高、前月比8.4%安）と、前年同月を大幅に上回った（図6）。

国・地域別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

マレーシア	11万2898円
（前年同月比77.3%高、前月比8.2%安）	
インドネシア	10万3596円
（同69.2%高、同5.2%安）	

図6 サゴでん粉の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1108.19-011、1108.19-012、1108.19-017、1108.19-018、1108.19-019

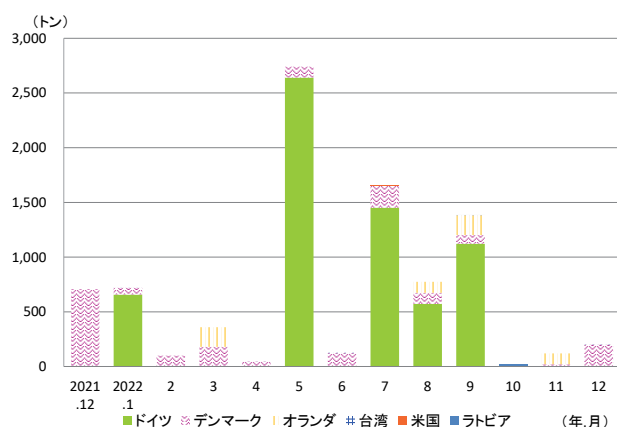
【ばれいしょでん粉の輸入動向】 12月の輸入量は前年同月から大幅に減少

財務省「貿易統計」によると、2022年12月のばれいしょでん粉の輸入量は205トン（前年同月比71.0%減、前月比69.1%増）と、前年同月から大幅に減少した（図7）。

輸入先はデンマークおよび台湾で、国・地域別の輸入量は次の通りであった。

デンマーク	200トン
	（前年同月比71.6%減、前月比9.5倍）
台湾	5トン
	（前年同月および前月輸入実績なし）

図7 ばれいしょでん粉の国・地域別輸入量の推移



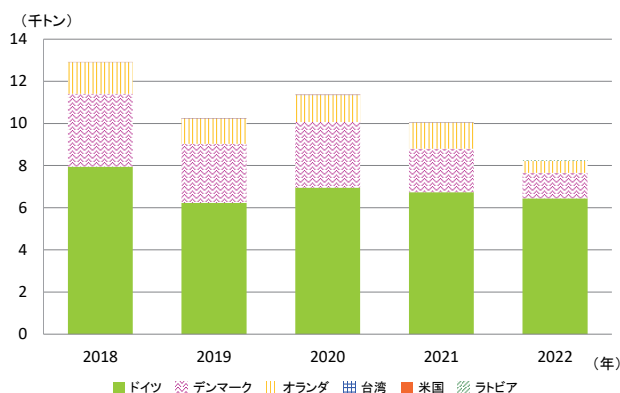
資料：財務省「貿易統計」

注：HSコード1108.13-010、1108.13-020、1108.13-090、1108.13-091、1108.13-099

また、2022年1～12月のばれいしょでん粉の輸入量は、前年比18.0%減の8253トンと前年から大幅に減少した（図8）。国・地域別の輸入量は次の通りであった。

ドイツ	6444トン	（前年比4.3%減）
デンマーク	1209トン	（同41.5%減）
オランダ	560トン	（同55.0%減）
ラトビア	20トン	（前年輸入実績なし）
台湾	19トン	（前年比43.5%増）
米国	1トン	（前年同）

図8 ばれいしょでん粉の国・地域別輸入量の推移（年別）



資料：財務省「貿易統計」

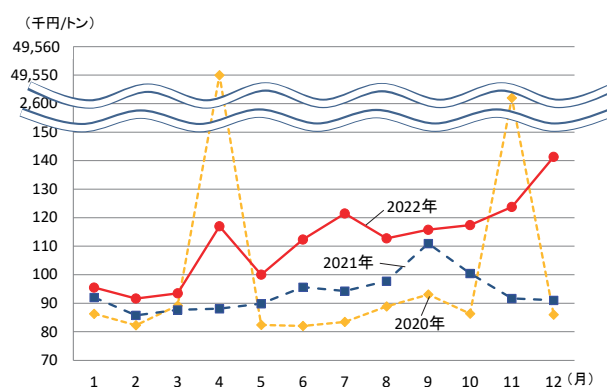
注：HSコード1108.13-010、1108.13-020、1108.13-090、1108.13-091、1108.13-099

2022年12月の1トン当たりの輸入価格は、14万1333円（前年同月比55.3%高、前月比14.2%高）と、前年同月をかなり大きく上回った（図9）。

国・地域別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

デンマーク	13万6430円
	（前年同月比51.2%高、前月比7.1%高）
台湾	35万6360円
	（前年同月および前月輸入実績なし）

図9 ばれいしょでん粉の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」

注：HSコード1108.13-010、1108.13-020、1108.13-090、1108.13-091、1108.13-099

【でん粉誘導体の輸入動向】

12月の輸入量は前年同月から大幅に増加

財務省「貿易統計」によると、2022年12月のでん粉誘導体の輸入量は、3万7207トン（前年同月比29.2%増、前月比15.6%増）と、前年同月から大幅に増加した（図10）。

でん粉誘導体の輸入先は15カ国・地域で、最大の輸入先はタイであった。主要輸入先からの輸入量は次の通りで、タイが輸入量の約7割を占めており、次いでベトナム、フランスとなっている（表3）。

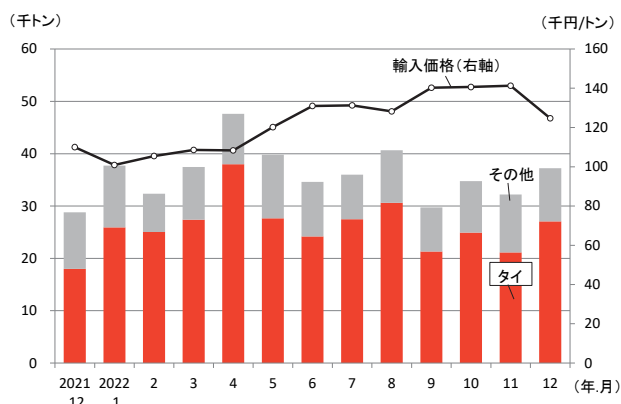
表3 でん粉誘導体の主要輸入先および輸入量（12月）

輸入先国	輸入量（トン）	シェア
合計	37,207	100.0%
うち タイ	27,056	72.7%
ベトナム	2,909	7.8%
フランス	1,448	3.9%
デンマーク	1,151	3.1%
スウェーデン	940	2.5%
ドイツ	885	2.4%

資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード3505.10-100

2022年12月の1トン当たりの輸入価格は、12万4702円（前年同月比13.3%高、前月比11.7%安）と、前年同月をかなり大きく上回った。

図10 でん粉誘導体の輸入量および輸入価格の推移

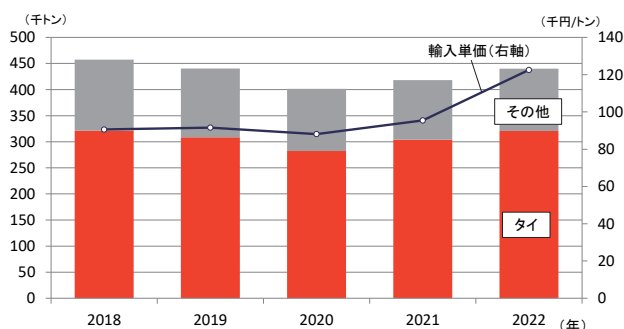


資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード3505.10-100

2022年1～12月のでん粉誘導体の輸入量は、前年比5.2%増の44万122トンとなった（図11）。

また、同年の1トン当たりの輸入価格は、前年比28.4%高の12万2588円となった。

図11 でん粉誘導体の輸入量および輸入価格の推移（年別）



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード3505.10-100

【デキストリンの輸入動向】

12月の輸入量は前年同月から大幅に減少

財務省「貿易統計」によると、2022年12月のデキストリンの輸入量は、889トン（前年同月比29.8%減、前月比0.4%増）と、前年同月から大幅に減少した（図12）。

デキストリンの輸入先は12カ国・地域で、輸入量は上位輸入先の数量および各国のシェアも含め、月ごとの変動が大きい。

上位輸入先からの輸入量は次の通りで、タイ、米国およびベトナムで輸入量の約6割を占めている（表4）。

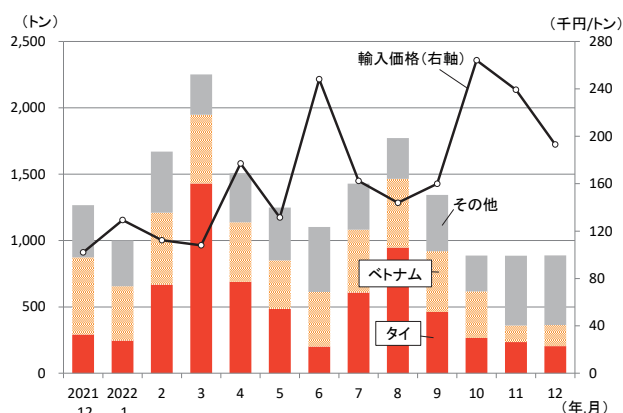
表4 デキストリンの主要輸入先および輸入量（12月）

輸入先国	輸入量（トン）	シェア
合計	889	100.0%
うち タイ	205	23.0%
米国	176	19.8%
ベトナム	159	17.9%
マレーシア	114	12.8%
ドイツ	100	11.3%
オランダ	53	6.0%

資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード3505.10-200

2022年12月の1トン当たりの輸入価格は、19万3114円（前年同月比89.4%高、前月比19.3%安）と、前年同月を大幅に上回った。

図12 デキストリンの輸入量および輸入価格の推移

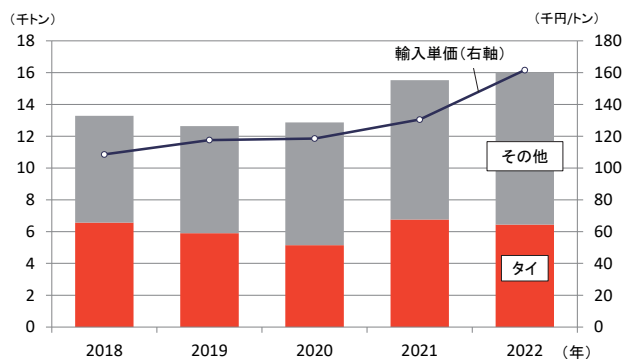


資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード3505.10-200

2022年1～12月のデキストリンの輸入量は、前年比3.0%増の1万5987トンと前年からやや増加した（図13）。

また、同年の1トン当たりの輸入価格は、前年比23.8%高の16万1640円となった。

図13 デキストリンの輸入量および輸入価格の推移（年別）



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード3505.10-200

【コーンスターチ用トウモロコシの輸入動向】 12月の輸入量は前年同月からかなりの程度減少

財務省「貿易統計」によると、2022年12月のコーンスターチ用トウモロコシの輸入量は、22万7871トン（前年同月比9.7%減、前月比29.5%減）となり、前年同月からかなりの程度減少した（図14）。

輸入先は、米国、ブラジル、南アフリカおよびアルゼンチンで、国・地域別の輸入量は次の通りであった。

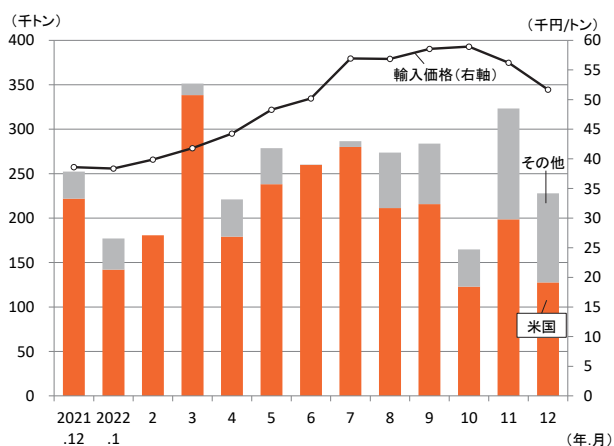
米国	12万7733トン
	（前年同月比42.4%減、前月比35.7%減）
ブラジル	9万3914トン
	（同32.4倍、同16.8%減）
南アフリカ	5000トン
	（同81.8%減、同11.9%減）
アルゼンチン	1224トン
	（前年同月輸入実績なし、同80.4%減）

2022年12月の1トン当たりの輸入価格は、5万1671円（前年同月比33.9%高、前月比8.1%安）と、前年同月を大幅に上回った。

国・地域別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

米国	5万2740円
	（前年同月比35.7%高、前月比7.5%安）
ブラジル	5万273円
	（同49.8%高、同8.2%安）
南アフリカ	4万8873円
	（同32.2%高、同9.7%安）
アルゼンチン	5万8885円
	（前年同月輸入実績なし、同0.6%安）

図14 コーンスターチ用トウモロコシの輸入量
および輸入価格の推移

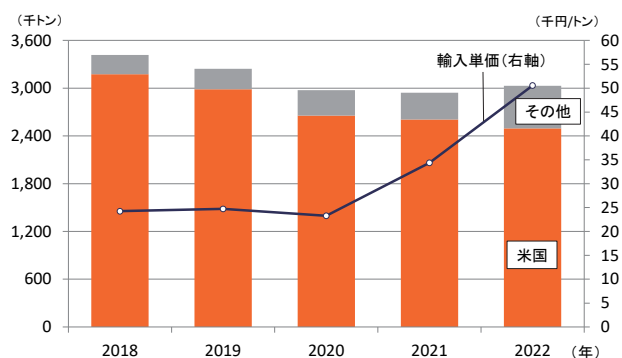


資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1005.90-091

2022年1～12月のコーンスターチ用トウモロコシの輸入量は、前年比3.0%増の302万9610トンとなった（図15）。

また、同年の1トン当たりの輸入価格は、前年比47.0%高の5万557円となった。

図15 コーンスターチ用トウモロコシの輸入量
および輸入価格の推移（年別）



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1005.90-091